

先生のための16のことば

第1回 「迷ったときは、する」

スクールアドバイザー 原田 孝

学校現場ではよくあることですが、子どもたちが怪我をしたり、クラスの他の子どもたちと言い合ったりもめたりします。大きな怪我でしたら先生方は病院へ連れて行き、保護者さんに必ず連絡を取り病院に来てもらうことでしょう。このようにクラスでケンカやもめ事があり、それがとても大きな出来事でしたら、担任教諭は保護者さんの職場にまで電話をかけ、また、大きな怪我でしたら夜に家庭訪問までされるでしょう。

しかし、出来事が重大ではないという場合が問題なのです。この「重大ではない」という判断は教師が経験からするものですが、いつも他の子どもたちの間で頻繁に起こっていることから、比較しながら相対的に考

えて、判断をするのではないのでしょうか。その結果、学校ではいつもよくあるという認識から「まあ大丈夫だろう」という判断が起こります。その気持ちがケースの判断の根底にあります。

例えば放課後に今日のある出来事について、ご家庭に電話をします。いまの時代、固定電話のご家庭は減っています。スマホに電話してもつながらないことはよくありますので、固定電話の留守番電話やスマホにメッセージで、「~さんの担任の・・・です。また、後ほど電話します」とメッセージを入れて終わります。その後30分ほどたちまた電話します。やはり留守番電話でした。そして他の仕事、クラブ活動や教材作りをして、電話に件が頭から遠のきます。気が付い

たら時計は夜の 8 時を回っていました。先ほどの電話を思い出すのですが、8 時を回っているので、これぐらいのことなら「まあいいか。大丈夫だろう」という気になります。そこでご家庭にも失礼になるので、明日にしようと思います。

多くのご家庭では、留守番電話を聞いたあと、子どもに聞きます。「先生から電話があったんだけど、今日、学校で何かあったの？」お子さんは「わたしの筆箱が無くなったので、誰かが廊下の机の上に置いてくれたの。それを誰かが見つけてくれて先生に届けてくれたの。」このように聞くと、多くの保護者さんは、「そう戻ってきてよかったね。」で終わりますが、そうならない場合がたまにあるのです。

普段からご自分のお子さんとは他の子どもたちとの関係性がよくないと思ってらっしゃる保護者の方など、すぐに連想されることは「いじめ」です。多分、「その件の電話だな」と思われます。保護者さんの頭の中は???です。親切で廊下の机に置いたというように、好意的には取られる方もいらっしゃいますが、このようにお子さん同士

の関係性がいいものとは思ってらっしゃらない保護者さんは、善意でという想像は難しいのではないのでしょうか。その気持ちを抱きながら、保護者さんは朝まで不安な時間を過ごされることになるのです。

教師は、そのような保護者の気持ちの変化を想像もできないまま、朝に電話をします。教師からの昨日の電話がなかったという不信が大きくなっている保護者さんと、大したことはないという気持ちの教師の会話が始まります。保護者さんの第一声が「うちの子の筆箱が隠されたらしいですけど、それっていじめではないのですか！」のように、不安から生じた極端な言葉になる可能性もあるのです。

留守番電話に連絡を入れると、必ずその日のうちに連絡を取ることです。3回、4回でもつながらない時は、簡潔に内容を留守電に伝えて保護者に安心をしていただくことです。12時間で信頼が崩れることがあるということを知っておいた方がいいと思います。

「明日でもいいか」ではなく、

迷ったときは、今、することです。